

令和5（2023）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修II② 実施報告

実施日：令和5年10月4日（水）

当研修は、社会の要請に応じた生涯学習・社会教育行政を推進するために、各自治体で取り組むべき施策の方向性に関する知識や新たな取組を展開するのに必要な技術の習得を目指すことをねらいとしています。

第2回は、これからの生涯学習・社会教育行政が目指すべき新たな施策の方向性にある「Society5.0時代における生涯学習・社会教育の推進」に関する基本的な知識を得ることを目的として実施し、生涯学習・社会教育主管課や公民館・市民センターの職員等7名の方が参加しました。

○ 講話「Society5.0時代の生涯学習・社会教育の推進」

NPO法人地域学習プラットフォーム研究会理事長 柵 富雄 氏

柵氏は IT 企業在職中に「市民も知識・経験を提供する側に立ち、自ら作った講座を開催する」というコンセプトを掲げ、富山県をはじめ各地の「インターネット市民塾」の設立に関わりました。また、文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員や総務省の地域力創造アドバイザー、地域情報化アドバイザー等の国の委員を務めるなど、「情報化と生涯学習・社会教育」に造詣が深い先生です。

今回は、柵氏から Society5.0 と社会の変化、Society5.0 を進める情報技術、新たな課題と今後の取組について話がありました。特に今後の取組として、生涯学習プラットフォームのあるべき姿が示され、そこに向けて、生涯学習・社会教育行政職員としてどう考え、行動すべきか説明がありました。受講者は、柵氏の多岐にわたる示唆に感動を覚えるとともに、関心を持って聴いていました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・生涯学習・社会教育の分野にも、学校教育における「個別最適な学び」は必要であり、そのためには ICT を活用するという考えを学びました。また、高齢者や障害者、職を持つ若者などを対象とした講座には、新しい視点を持って企画すべきであることを理解しました。
- ・Society5.0時代をきちんと学ぶことができました。また社会変化や社会のニーズが思っている以上に大きいことも実感しました。社会教育行政職員として、色々学ぶべきことがあると思いました。
- ・柵先生の講話の中で紹介された事例を聴き、工夫次第では講座の受講者を増やすことができることを学びました。次年度に取り組んでみようと思いました。
- ・関係者同士の「つながり」が何かの急な出来事にも対応できるということを学びました。また、顔の見える関係性が重要であることを理解しました。つながりづくりを意識した取組を担当事業で試みたいと思いました。
- ・今回学んだことを学校教育課職員へ還元したいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

